名張まちなか見所案内

名　　張　　市

名張地区既成市街地（まちなか）の主な見所

名張まちなかの主な見所

名張地区のまちなかには、名張藤堂家の家紋にちなんで“桔梗ヶ丘”と呼ばれる丘とそこに建つ名張藤堂家邸跡を中心に、城下町（陣屋町）や初瀬街道の宿場町の面影が今も残ります。江戸川乱歩も称賛した名張のまちなかは、地区の周縁部を流れる名張川まで歩いて20分ほどで到達できるコンパクトで情緒あふれるまちです。歴史と文化があふれる名張まちなかの散策をお楽しみください。

江戸川乱歩が生まれ、江戸川乱歩が歩いた名張のまちへようこそ

6 寺町の家並み【徒歩12分】

7 乱歩生誕地前のひやわい※【徒歩14分】

8 やなせ宿（旧細川邸）【徒歩14分】

9 上八町のまち並み【徒歩10分】

※ひやわい…名張の方言で狭い路地のこと

※徒歩○分…名張駅からの所要時間を示す

1 宇流冨志禰神社【徒歩5分】

2 名張藤堂家邸跡【徒歩6分】

3 城下川【徒歩9分】

4 一の鳥居【徒歩11分】

5 本町のまち並み【徒歩11分】

名張まちなか散策マップ
Nabari Town Area Guide Map

まちなかの見方

まちなかの新町橋や名張川護岸などからは、名張川の流れや山並みを背景に美しい風景が望めます。

これらの構造は、まちなかの貴重な自然的景観資源といえます。

江戸時代の錦絵（二代目広重作）である「諸國六十八景・伊賀名張」には、豊かな名張川の流れや小高い丘を背景に、街道沿いのまちが描かれています。

●地区を取り巻くように流れる名張川

「錦絵」（名張市指定文化財にみる名張川）

名張地区西部の市街地周縁部には、古くは黒田庄と呼ばれるまとまりのある田園地帯があり、その背景となる山並みやそれらを明確に区切る名張川沿いの竹藪などが折り重なり、特徴的な景観を形成しています。

これらは、まちなかの貴重な自然景観資源といえます。

●地区西部に広がる田園地帯

まちなかを網の目のように流れる簗瀬（やなせ）水路は、1636 年、藤堂高吉の城下町建設の時にさかのぼります。高岩井堰取水口から、名張川の水が取り入れられ、名張地区を貫流し、末端で 7 ヶ所に分かれて名張川へ流れ出ています。現在でも豊かな水量が確保され、農業用灌漑用水としてだけでなく、生活に密着したまちの景観資源の一つにもなっています。

また、この簗瀬（やなせ）水路では、自然石積みの護岸構造が残る部分もみられ、歴史的建築物とともに、まちなかの貴重なまちづくり資源ですが、交通事情や生活様式の変化により、暗渠化が進み、名張らしさのある水路の景観が失われつつあります。

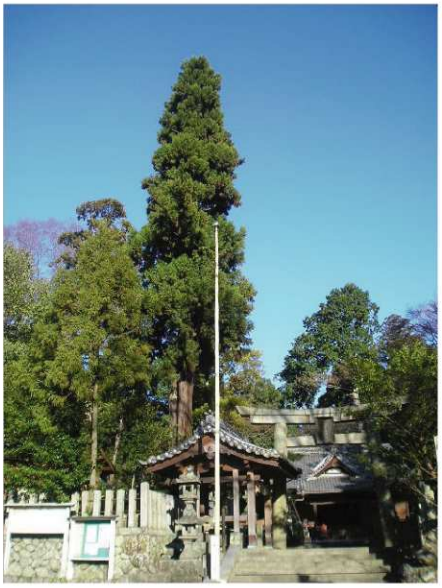
●地区内を網羅する簗瀬水路の流れ

まちなかの平坦地には城下町・宿場町として栄えたまちなみが広がり、台地には名張藤堂家邸跡や名張城址の石積みが残るなど、桔梗ヶ丘や平尾山の地形的特徴を活かした都市構造が現在でもみられます。

これらは、貴重な歴史的景観資源といえます。

●桔梗ヶ丘に残る旧名張藤堂家邸跡

まちなかでは、宇流富志禰神社、桔梗ヶ丘の寿栄神社の杜、名張城址の屋敷林などが、緑のランドマークとなっており、まちなかに潤いを与えています。



●ランドマークとしての神社などの緑

「えべっさん」と呼ばれ市民に親しまれている「八日戎」が２月７・８日、鍛冶町の蛭子神社で行われています。

八日戎は、別名「はまぐり祭」とも呼ばれ、たくさんの露店に混じって、はまぐりの市が開かれます。

これは、「初瀬街道」の要所であったこの地で開かれていた、山の幸と海の幸の交換市の名残で、 今に残っている商品がはまぐりと植木であると言われています。

●八日戎や花火大会などの季節行事

やなせ宿では、名張川沿いの広場や中庭、蔵、和室などを活用した、様々なまちづくり活動や催しが企画・開催されています。

●やなせ宿での取組

◆「文化薫る魅力と愛着のあるまち」の紹介

名張の城下町の形成は、1585 年に伊賀の国主となった筒井定次の家臣であった松倉氏が名張地区の中央台地に名張城を築いた事から始まります。

その後、1636 年、伊予国今治から来住した藤堂高吉により本格的な城下町建設が行われました。名張城の跡地に領主の名張藤堂家邸を配置し、その下を流れる川を「城下川（じょうげがわ）」と名付け、外堀の機能を与えています。また、伊予から連れてきた多数の家臣と商人、職人を町に居住させました。そして、外敵の進攻を阻む戦術から、鍵型に屈折した町筋や用水路をつくり、御殿がある高台の斜面には竹藪を張り巡らすなど、小規模ながら城下町（陣屋町）としての形態をもつまちづくりがなされました。

現在でも、藤堂家邸の一部や寿栄（じゅえい）神社に移築された御殿の正門である太鼓門、城下川（じょうげがわ）、鍵型の町筋や用水路、竹藪や石垣の跡など、往時の面影が残ります。

また、名張は初瀬（はせ）街道の宿場町としても発展し、軒を並べた商店も繁栄する町となりました。今も残る初瀬（はせ）街道のまちなみはこの頃形成されたものと考えられています。

名張絵図　文化三年（江戸末期）

原図は名張市教育委員会所蔵

「文化薫る魅力と愛着のあるまち」につながる取組

◆ 名張市旧細川邸「やなせ宿」の整備 （平成19年度実施）

整備後

※やなせ宿での取組のようす

◆乱歩生誕地碑広場整備（平成20年度実施）

整備後

◆「歩いて楽しいまち」の紹介

地名「簗瀬（やなせ）」の語源は、川魚を捕る簗（やな）の意と考えられています。名張川のアユは有名であり、古代には神宮に供られたので、供御川（くごがわ）の別名もあります。このアユを捕るために名張川は古来から簗（やな）が設けられ、簗瀬（やなせ）はその拠点となった地に付けられたものと考えられています。

1636 年、藤堂高吉が、名張の城下町建設に取りかかっています。中央台地に領主藤堂家邸を配置し、その下を流れる川を「城下川（じょうげがわ）」と名付け、外堀の機能を与えており、名張の水田の唯一の灌漑用水として、簗瀬水路（やなせ）が誕生しました。

今では、この簗瀬（やなせ）水路の水音を聞きながらの散策がとても楽しいまちとなっています。

「歩いて楽しいまち」につながる取組

◆公共サイン（まちなか案内板・誘導板）の整備　（平成19年度実施）

名張駅西口付近

名張藤堂家邸跡付近

城下川沿い

名張市旧細川邸やなせ宿

江戸川乱歩生誕地碑付近

名張市旧細川邸やなせ宿

◆太鼓門散策道整備 （平成20年度実施）

◆城下川沿い道路修景整備 （平成20年度実施）

◆乱歩生誕地広場竣工 リーフレットの作成（平成20年度作成）

◆「賑わいのある元気なまち」の紹介

まちなかを通る、初瀬街道は、宿場町として発展し、軒を並べた商店が繁栄する町となりました。今も残る初瀬街道のまちなみは、この頃形成されたものと考えられます。

明治時代から昭和の近代化の時代にかけて、これらのまちなみは変貌しましたが、今も初瀬街道沿いには、歴史的な建築形態を有する建物がある程度のまとまりをもって維持・継承されており、中には造り酒屋を示す杉玉のある商家建築などもみられ、来訪者に人気のある老舗となっています。

●初瀬街道のまちなみ

初瀬街道が鍵状に折れ曲がる一の鳥居周辺地区は、初瀬街道と宇流冨志禰神社の参道とが重なる結節点として、宇流冨志禰神社の一の鳥居、神椿の松、金比羅社及び簗瀬水路(暗渠)で構成され、まちなかにおいても特筆できる固有の空間となっています。

この中で、一の鳥居と神椿の松は、中町、元町及び榊町の各通りから目視できるアイストップとなっています。

まちなかは、初瀬街道と名張城址を核として、近鉄大阪線から初瀬街道にかけて広がる、旧城下町の名残りをとどめた名張市の古くからの中心市街地です。

近鉄名張駅西口は、このまちなかの広域的な玄関口となっています。

●近鉄名張駅西口

●かつては多くの旅人で賑わった一の鳥居

「賑わいのある元気なまち」につながる取組

◆隠街道市（なばり）　（平成 18 年から継続実施）

◆やなせ宿での催しなど　（平成 20 年度実施）

※お雛様（やなせ宿）

※お餅つき（やなせ宿）

※和菓子の食べ歩き（まちなかの老舗）

◆「人が主役のまち」の紹介

●伊賀まちかど博物館

「はなびし庵」では、名張の古町に静かに佇(たたず)んでいる大きな石の鳥居(通称　一の鳥居)のすぐそば、すみた酒店の中にあります。「伊賀まちかど博物館」として、店の一角や築170年の座敷と庭を開放し、蔵を整理して出てきた先祖伝来の品々を並べて、幕末の町家の雰囲気を味わっていただいています。

名張の歴史や文化を織り込んだ【影絵劇】をオリジナルに制作して、奥座敷にて上演しています。古めかしい町家座敷の書院に特製の「ミニ劇場」(影絵を映し出すガラス入りの舞台)をしつらえて、廻り廊下側からライトをあてて影絵を映し出します。

名張の町おこしのひとつとして、又、名張を散策に訪れる方々の観光スポットになれば。。。と夫婦で取り組んでいます。

よってだーこ

１号

開催日：毎月第2･第4火曜日(10:00～14:00)

事業内容および対象者:高齢者サロン

７号「結(ゆい)」

開催日:月数回不定期(事前告知あり)

事業内容および対象者

･ふれ愛サロン(月2回不定期)

･新鮮野菜の直売(毎週木曜)

･パソコン教室(不定期)

●ボランティアガイド　おきつも

地域（名張）の住民自らが、その地域が持つ豊かな資源について、それぞれ得意の分野で紹介するものです。ボランティアガイドの方々は観光ボランティアとして活動していて、プロではありませんが、その「もてなしの心」にあふれた案内はご利用いただいた方々から好評を得ています。

「人が主役のまち」につながる取組

◆ワンディシェフ （平成20年から継続実施）

■□■5月度・ワンデーシェフ情報■□■

日	曜日	お店の名前	メニュー（予定）
16	土	いすず亭	・鯖塩焼き・若竹煮・ニラと油揚げの合え物・マカロニサラダ・出し巻き・ご飯・みそ汁・果物
17	日	いすず亭	・鶏もも肉青しそ入りから揚げ・じゃがいもの白煮・エリンギのきんぴら・コールスローサラダ・ご飯・みそ汁
19	火	よっていっ亭	・ハヤシライス・サラダ・フルーツ・デザート
20	水	ママ友	・豚肉のトマトソースがけ・ナス、ピーマンの揚げびたし・きんぴら・一口がんものうま煮・デザート・ご飯・みそ汁
21	木	伊藤家の食卓	・とりのトマト煮・五目きんぴら・ミニオムレツ・ホタテサラダ・ご飯・フルーツ・みそ汁
22	金	レストランやなせ	・豚肉の梅春巻き・洋風切り干し大根の煮もの・ほうれん草の三色サラダ・桜海老の玉子焼き・ご飯・みそ汁
23	土	いすず亭	・豚肉のピカタ・さつまいもとリンゴの甘煮・がんもと小松菜の煮物・味ゆで玉子・春雨サラダ・ご飯・汁物・果物
24	日	島ちび屋	・豚丼（国産豚）・出し巻き卵・小鉢・アーサー汁・グァバゼリー
26	火	レストランやなせ	・鮭フライ（タルタルソース添え）・カレー肉じゃが・キャベツと竹輪の和風サラダ・ナスの田楽・ご飯・みそ汁
27	水	おおそま亭	・鶏肉の梅照り焼き・野菜の春巻き・うの花・しいたけ、きゅうりの酢のもの・こんにゃくのうま煮・白飯・すまし汁・フルーツ・漬物
28	木	シルバーにっこり	・フライ各種・ソーメンサラダ・白和え・イカとブロッコリーのごま和え・煮物・漬物・デザート（コーヒーゼリー）・みそ汁

◆名張川クリーンアップ作戦のようす（継続事業）

名張川では、地区住民により、毎年清掃ボランティアの取組がなされています。
（平成 21 年5月の取組のようす）

◆「健やかな暮らしが広がる住みよいまち」の紹介

名張地区では、建物と建物の間の路地空間を“ひやわい”とよびます。

庇と庇の間の空間の“ひあわい(庇間)”が語源と考えられます。

昔の名張絵図では、現在の鍛冶町と上本町をつなぐ路地空間として“うら町”と表現されている部分や、寺町の寺院群への路地空間がこれにあたると考えられます。

また、初瀬(はせ)街道沿いに建ち並ぶ商家の表から裏に抜ける“ひやわい”も多く存在し、当時は防火のための緩衝帯としての機能も果たしていたものと考えられます。

現在はこの“ひやわい”に対して開口部を設けた建物が大半を占め、その機能も失われているようですが、まちなかの様々なまちづくり資源を迷路のようにつなぐこれらの“ひやわい”は、まちなかの特有の歴史的都市空間であるとともに、歩いて安全な散策路としての活用も期待されています。

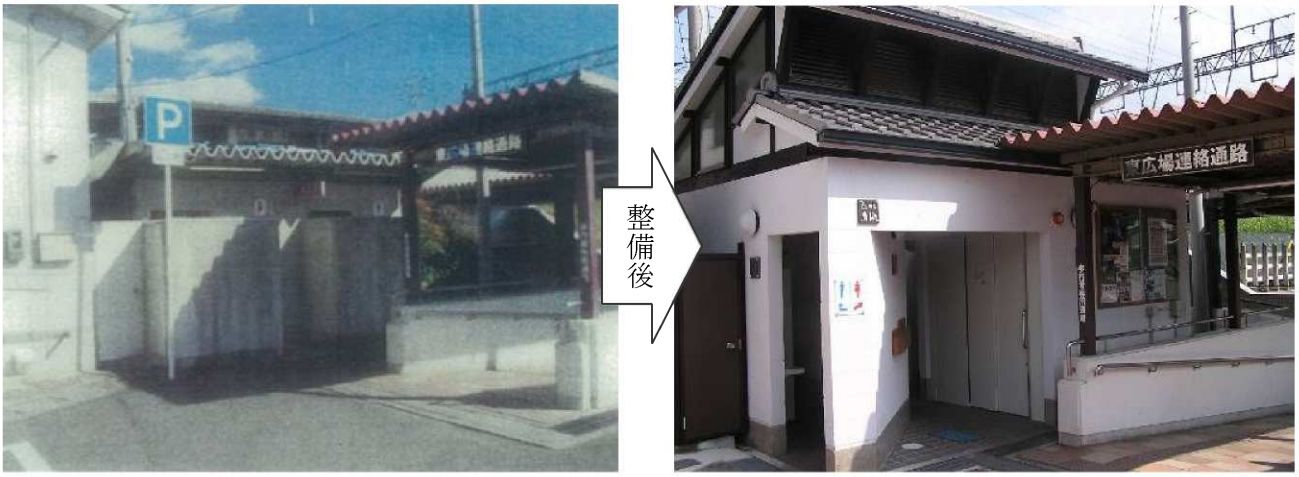
●まちなかの代表的なひやわい

名張川沿いには、舗装された美しい道路や散策道、エコロードなどがみられます。

●リバーサイド

「健やかな暮らしが広がる住みよいまち」につながる取組

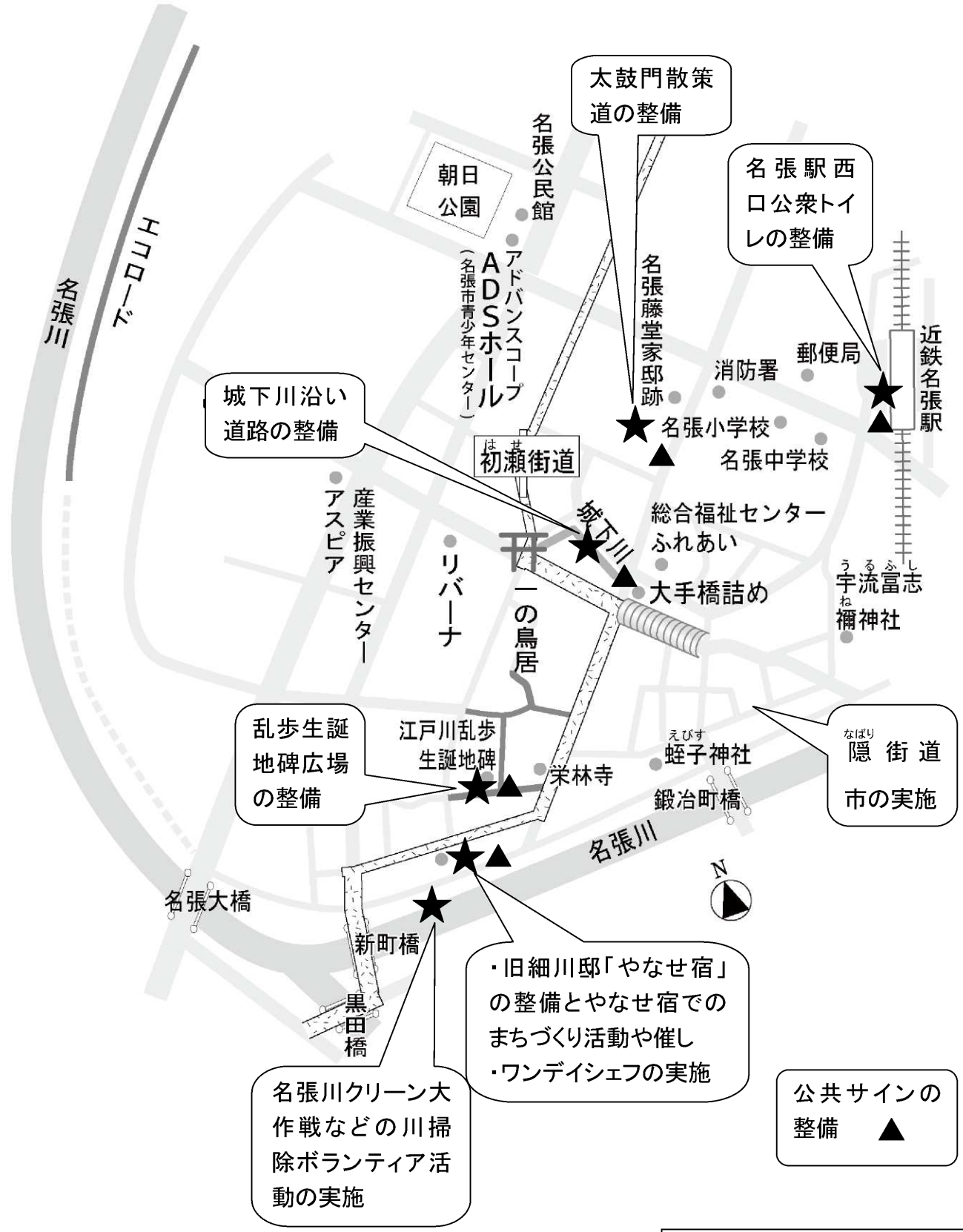
◆名張駅西口公衆トイレ整備 （平成17年度実施）



◆旧細川邸やなせ宿　ポケットパーク（平成19年度実施）

◆乱歩生誕地碑広場整備（平成20年度実施）

◆取組マップ



連絡先
名張市都市整備部市街地整備室
TEL　0595-63-7746
FAX　0595-63-4677